

大沢市民センター 事例報告



大沢市民センター
館長 佐藤昭彦

大沢市民センターの紹介

大沢市民センターは平成2年5月
児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

平成30年度に大規模修繕が行われた。





青葉区の中心部から西北部に位置し、田園地帯や緑多い丘陵地など豊かな自然環境の中にある。

大きく仙台市を見ると、だいたい中心部に位置するので、地元の人
は「おおさわのへそ」と呼んで地
元を愛している。

大沢市民センターの管轄する地域は、大沢小学校のある大沢地区と川前小学校のある川前地区に分かれている。市民センターはみやぎ台団地のふもとにあり、大沢小学校には徒歩10分くらいの距離であるが、大沢中学校と川前小学校からは離れて位置している。



大沢地域の特性

1 地域の特徴

(1) 大沢市民センター管内は、古くからの村落である芋沢地区と、大沢小学校区にある「みやぎ台」「向田」、川前小学校区にある「赤坂」「高野原」の団地がある。みやぎ台、向田は成熟した団地で高齢化が進んでいる。高野原は比較的若い人たちが多い。団地以外の芋沢地域は高齢化率がかなり高い状況である。

高齢化率	仙台市	=	24.55%			
	大沢地区	=	38.65%	(芋沢46.6	みやぎ台35.9	向田35.9)
	川前地区	=	24.55%	(芋沢56.5	赤坂21.3	高野原12.3)

(2) 2つの小学校区でそれぞれの連合町内会が個々に活動を行っている。

大沢小学校区連合町内会（11町内会）

川前地区連合町内会（6町内会）

(3) 地域資源として、恵まれた自然環境と古い史跡がある。また、比較的年齢の高い人たちはボランティア活動への意識の高さがあり、市民センターの活動にも協力的な人たちが多く、実際に活動している。

2 大沢市民センターの地域課題

- (1) 地域が広範であること、大沢市民センターが大沢地区にあることから
大沢・川前地区同士の地域交流があまり多くない
(諸団体・地域人材・サークル・個人など)
- (2) 市営バスは運行しているものの便数が少なく不便なことから
自家用車以外での移動手段がない
→大沢地区と川前地区を結ぶ形での公共交通機関がない
- (3) 全体で見ると、**高齢化**が進んでいること
- (4) 地域内に、大規模な商店街や銀行がないこと

3 地域課題の解決に向けて

- (1) 交流する場や機会を持つ工夫をすること
- (2) 年齢が高くても意識的に活動していこうとしている人たちに、場や機会をつくっていくこと

大沢市民センター 各種講座の取組

1 地域住民本位の生涯学習拠点機能

◇ 大沢地域出前講座

地域のニーズに合わせた講座を、各地域の集会所に出向き開催。
生涯学習と地域交流の場を提供することができ、地域活性化に繋がっている。



◇ 大沢朗々学園

高齢者が、学習意欲と生きがいを維持できるように支援し、受講生同士の交流と心身の健康維持を図っている。



◇ 市民企画講座

地域の実情や要望に合った講座を企画・開催するための会議（市民企画会議）を経て実施。

令和3年：リコーダー（音楽系）

令和4年：健康体操（体育系）

令和5年：地域の宝さがし（歴史系）



2 地域の交流・拠点機能

◇ 大沢・川前地域合同発表会

地域の学校・幼稚園と共催することで、大沢中学校区全体の地域交流につなげ地域ぐるみで子育て支援をする意識の構築を目指している。



◇ スポーツで地域交流 大沢・川前グラウンドゴルフ交流会

大沢・川前両学区民体育振興会と協働でグラウンドゴルフ交流会を実施。地域に根差した行事となっている。



3 地域のコミュニティづくり機能

◇ 大沢農学校

農作業を通して、楽しみながら食の大切さや自然について考える機会を提供し、地域を見直すきっかけとする。受講生が地域人材として活動できるようにつなげている。



◇ 小さな発表会

市民センターで活動するサークルの成果発表の場を設け、地域内に活動の様子を発信すると共に、情報交換することで地域の活性化につなげている。



4 地域のコーディネート機能

◇ 大沢地域懇話会

地域の町内会や各種団体、教育機関と情報交換することで、地域課題解決の糸口やニーズを把握する機会として年3回実施している。



特色ある取り組み事例

大沢・川前地域交流ネット あがれ！天旗

1 事業概要

- (1) 平成25年度に、大沢・川前両地区の交流を図り
活気ある地域づくりの実現と両地区住民が気軽に
集まり取り組める場の設定を目的として、市民企画会議を開催した。
- (2) 会議の中で「するめ天旗」を活用した凧づくりと凧あげが企画された。
- (3) 現在は大沢・川前両地域の住民で構成される「大沢・川前地域交流ネット
あがれ天旗実行委員会」と市民センターが協働で事業を実施しており、令和4
年度に10年目をむかえた。



2 これまでの経過

- (1) 平成25年度に、市民企画会議「大沢&川前地域交流ネット」として始まる。大沢地区と川前地区の住民が、地域課題を話し合い、交流のパイプを太くするため、多くの人が参加できる「大沢・川前あがれ！天旗」を企画した。
- (2) 平成26年度も、築き上げた信頼関係を活かし企画員が協力し合って、活気ある地域づくりに向け検討協議し地域間交流イベントの継続につなげた。企画会議で実行委員会の立ち上げの動きへと進んだ。
- (3) 平成27年度より実行委員会としての活動が始まった。



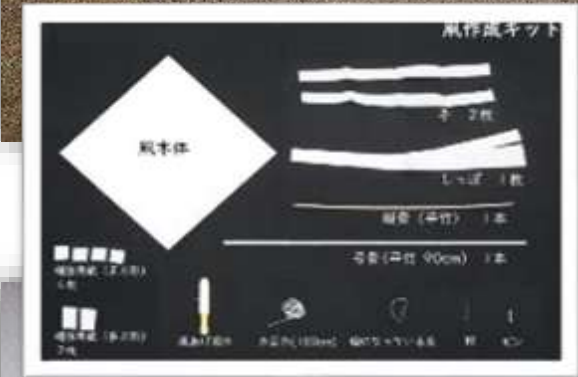
(4) 平成27年度以降、「参加者を増やすにはどうしたらよいか」「よく揚がる凧への改良」をテーマに実行委員会が主体的に活動を開始。

- マスコミを通じての告知
- 児童館への出前
- 他地域の凧あげに参加
- 設計図、型紙、スケールの作成などを行う。

(5) 実行委員会の活動が実を結び毎年100名を超える参加者でにぎわう。



- (6) 令和2年度から3年にわたって新型コロナウイルスの脅威に悩まされることになる。
- (7) 実施の有無について検討してできることはないか模索。
- (8) 凧あげは屋外であることから、開会式や交流会をやめて凧あげのみ開催することにする。
- (9) 子どもたちと直接触れ合う凧作り講座の開催は控える。対面での凧作り講座の代わりに、凧作製キットを配布する。
- (10) 凧の作り方をYouTubeで公開するため、初めて凧作製動画の撮影を行う。
- (11) 動画作成のために、市民センターと実行委員がしっかりと連携し、毎年新しいものに更新している。



(12) 令和4年度に10年目を迎え、大々的に実施。

- 例年より早く5月から実行委員会を開始
- 休止していた凧作り講座を実施
- 参加者へのお土産の手作り記念品の作成
- 記録誌（10年のあゆみ）作成
- サプライズゲスト伊達武将隊（政宗・成実）
- 凧絵コンテストの復活 など

(13) 10年を一区切りとし、実行委員会は休止・・・



3 今年度の活動

- (1) 老若男女が楽しめる、地域に根差した事業となっており、今後も両地域の交流の場として継続が必要と判断し、実行委員のメンバーで「愛好会」を立ち上げ、キット作製や凧作りの講師として、技術面、運営面で協力をもらう。
- (2) 地域の子育て世代に声掛けをし、3家族がキット作りに参加。
- (3) 11回目にして初の中止に・・・
しかし、交流が目的のひとつということで、当日は体育館でグラウンドゴルフを実施し交流を楽しむ。



4 成果と課題

- (1) 10年の間に世代を超えた交流の場として地域に定着。
- (2) 市民センターを会場に実行委員会を開催することで、市民センターの事業等に関わる機会が増えたり各々のスキルを活かした地域人材として活躍する場面が増えた。
- (3) 市民センター事業以外の行事やサークル活動での交流が図られた。
- (4) 愛好会メンバーの高齢化。
- (5) 雨天時プログラムの準備。



5 今後の展望

- (1) 地域に根差した事業となっていることを踏まえ、地域の交流の場として継続する意義は大きい。
- (2) 愛好会メンバーは高齢化が進んでいることから、今年度協力いただいた3家族をはじめとして後継者を育てることに努める。



ご清聴
ありがとう
ございました

